

ご支援くださっている皆さまへ

3月号の新聞をお送りするのが遅くなってしまい、大変申し訳ありませんでした（4月は休刊にしているの、今回お送りしたのは3月号です）。

いろいろなことが重なり、あっという間の3月、4月でした。

■事務所の移転について

団体設立からこれまで、私たちは石巻の方々に支えられ、活動に対する多大なるご理解・ご協力をいただき、活動を行なってきました。その一つが、石巻の街なかになる「かめ七呉服店」さんで、2階の空きスペースを ①新聞6000部の保管場所、②地元ボランティア&県外ボランティアのオリエンテーションや振り返りの会を行なう場所、③県外ボランティアの簡易宿泊場所として利用させていただいてきました。そのかめ七呉服店さんが今度、近隣地権者の方々と共に優良建築物等整備事業（再開発）を立ち上げられることになり、5月中旬に建物が解体されることになりました。

そんな経緯で、私たちは移転先を探さなくてはならなくなりました。

どこか安く間借りさせていただけるところはないかしら…

でも宿泊もできる事務所なんてないよね…？

電車やバスで通っている地元ボランティアさんもいるから、駅から遠くないと。

どうせなら地元のボランティアさん同士がもっと交流しやすい拠点、

県外のボランティアさんがまた石巻に帰ってきたくするような拠点にしたいよね。

今年2月頃から、あーでもないこーでもない、いろんなことを考え合わせて、さまざまな人に相談し、助言をいただきながら、ようやく駅前北通り（石巻駅から徒歩5分）の築50年の2階建一軒家に出会うことができました。

1階の約12畳のお部屋は、①新聞6000部の保管場所、②地元ボランティア&県外ボランティアのオリエンテーションや振り返りの会を行なう場所として、2階の6畳2部屋を③県外ボランティアの簡易宿泊場所として活用し、これまでのように「月に1回の新聞発行」「訪問・傾聴しながらの新聞配布」「県外ボランティアの受け入れ」を行なうことができそうです。また、これまでのように間借りではなく独自の拠点を持つことで、地元ボランティア同士のコミュニティや結束強化にも繋げることができそうです。

トイレは汲み取りですが、せいたくは言ってられません。津波に浸水した地区ですが、防災グッズと避難マップを準備して、県外のボランティアさんも安全・安心して宿泊できるようにしようと思えます。震災後にリフォームされているので、築50年の割にはとてもキレイです。大切にに使わせていただこうと思います。

ここまで本当に大変でしたが、いまはワクワク&ほっとしています。ここまで支えてくださった方々に、心から感謝です。

■賛助会員について

上記の物件を取得し、事務所&宿泊場所として整備し、1年間維持していくために、（通常の活動資金とは別に）約120万円かかります。いくつかの助成金に応募していますが、まだ決定しているところはありません（通常の活動資金に関してもまだ決定していません…）。今年ももう一度クラウド・ファンディング（インターネットで寄附を集める仕組み）に挑戦することも考えましたが、クラウド・ファンディングは期間中とてつもないエネルギーが必要で、新聞の発行・配布という通常活動を行ないながらの実施は正直難しいと感じています（昨年実施したときは、団体設立～新聞再開の間だったので、新聞発行&配布の通常活動はありませんでした）。

また、活動資金の問題は、非営利かつ事業収入がほぼゼロの私たちにとって、常に付いて回る問題です。助成金や補助金は通常単年度なので、毎年綱渡り。これでは安定していい活動を続けていくのは難しいと、一年間活動してみて改めて実感しました。

そこで今年度から、安定して活動を継続していくために、「賛助会員」という制度を始めることにしました。基本的には今までと変わらず、「寄附してくださった方に新聞を送る」というカタチで、多くの方に少しずつお心を寄せていただきながら、安定して活動を続けていきたいと考えています。

皆さまには勝手ながら、賛助会員の申込書、会員規約、振込用紙を同封させていただきました。どうか一年間、私たちの活動を見守り、応援していただけると幸いです。またぜひ周りの方にも、私たちの活動を広めていただけると本当にありがたいです（賛助会員の申込みは、ホームページからも行なうことができます）。

ちなみに、もしも今応募している助成金が落ちてしまって、この賛助会員も皆さまからのご賛同が得られなかったら、そのときはまたクラウド・ファンディングに挑戦せざるを得ないかなと考えています。そうならないようにぜひお祈りしていただき&賛助会員へのご協力、本当によろしく願いいたします！

■新聞購読について

昨年、クラウド・ファンディングで寄附してくださった方の何人かから、「新聞は送らなくて良いので、その分活動にお金を使ってください」というお申し出をいただきました。とても優しく、思いやりのあるお申し出だなと感じました。ですが、私は「どうしても読みたくない!!」（もしくは全盲の方など、新聞を読むことができない）という方以外は、ぜひ新聞を購読して欲しいと思っています。

ひとつ目の理由は、新聞を毎月送付するのは、皆さまが思っているより、手間もお金もかかっています。現在毎月約100通を送付していますが、封入作業は地元のボランティアさんが集まったときに一気にいきなすし、最近では慣れてきたのもあって30分かかりません。毎月「こんなに沢山の方が寄附してくださるなんて、ありがたいね〜」と言いながら、楽しく作業しています。また郵送費は、石巻郵便局の方が私たちの活動に賛同し、社内で相当動いてくださったおかげで、実は破格の安さでお送りすることができています（その代わりに「私信」を入れることができないので、私の個人的な友人たちにも手書きの手紙を同封することなどができません。個人的に「ありがとう」のメッセージを付けたいと思うのですが…。でもいつも宛名シールを貼りながら、一人ひとりの顔を思い出し、心の中で「ありがとう!」と思っています。もちろん、お顔を知らない方に対しても、感謝の思いは絶えません）。

もうひとつの理由は、私は「石巻（被災地）の現状や課題を多くの方に知ってもらうこと」には計り知れない価値があると考えています。仮設住宅の住民さんに「いま、一番困っていることは？ 私たちに出来ることはありますか？」とボランティアが聞いたところ、「あなた達にして欲しいことは何もない。でも、ただ忘れないで欲しい」と言われたそうです。石巻の方々にとって、仮設住宅の住民さんにとって、「自分たちのことが忘れられてしまう」のが一番怖いのです。

私たちの新聞には、基本的に石巻のことしか載っていません。県外の方にとっては、おもしろく感じない方も少なくないと思います。自分には役に立たないと思う方もいらっしゃるでしょう。忙しいから読む時間がないと、これまでもあまり読んでいない方もいるのかなと思ったりします。

でも、貴方が月に1回、新聞を読むたった10分でも、石巻に想いを馳せてくれたら。貴方に「仮設住宅には今、こんな課題があるんだ」と知ってもらえたら。想像してもらえたら。そして、それを貴方が周りにいる誰かに伝えてくれたら。貴方に石巻を身近に感じてもらって、あわよくばいつか石巻を訪れてくれたら。それは、私たちが貴方から5千円の寄付をいただく以上に、石巻の復興のために価値のあることだと思うのです。

賛助会員の個人会員は「購読あり／一口5千円」と「購読なし／一口3千円」の2種類を作ってみました。ぜひ「購読あり」を選んでもらえたらうれしいです。もし「郵送費や手間がもったいない」と思うのでしたら、その分、周りの方に私たちの活動を、石巻の現状を伝えてください（または2口以上ご協力をください）。家族との夕食、友人とのランチの話題にしてみてください。とても勇気のいることだと知っています。

でも、私は貴方と、東北・被災地の今を共に伝える「同志」になりたいと、心から願っています。